



REPORT ③

そばの生産技術・経営が高い評価
一木農産加工センターが全国表彰

全国そば優良生産農家・集団の表彰式が3月18日、東京で行われ、「一木農産加工センター」が生産集団の部で農林水産省生産局長賞を受賞しました。

これは、そばの生産性向上や経営改善について、他の模範となる生産農家・集団を表彰するもので、(社)日本蕎麦協会が毎年実施しているものです。

代表の吉光典子さんは「そばの生産から販売までを、さまざまな課題を乗り越え、地域でまとまり取り組んできたことが評価された。これからはがんばっていききたい」と受賞を喜びました。

一木のそばは、「一木一寸そば屋」(土・日のみ営業)で味わうことができます。



前列右から3人目が吉光典子さん。後列右から4人目が藤原敦善さん。

子どもや孫への気持ちを17文字に
「子育て川柳」作品展

REPORT ④

「子育て川柳」の表彰式が3月14日、東城支所ホールで行われました。

これは、子育て・孫育の喜びや不安、悩みなどに共感し合える地域づくりを目指して、東城地域子育て支援センターが募集したもの。何気ない子どものくさやエピソードを5・7・5の17文字に込めた87点の作品が寄せられました。

審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞5点、スマイル賞4点が選ばれ、最優秀賞に近藤光香さんの作品「かるた取り わざとお手つき 孫てがら」が選ばれました。近藤さんは「お正月に帰省した孫が、覚えてたのひらがなを一生懸命探し、かるた取りに勝って喜ぶ姿を見てうれしくなった」とエピソードを振り返りました。

87点の作品は、東城高等学校書道専攻生徒により、短冊に毛筆書写。3月16日～25日まで東城支所ホールに展示されました。



受賞を喜び皆さん

REPORT ⑤

地域資源の活用策を考える
比和まちづくりシンポジウム

「こども夢みらい まちづくりシンポジウム」が2月25日、比和文化会館で開催されました。

このシンポジウムは、クラスターのまちづくりの一環として、住民参画で地域資源を有効活用し、地域活性化に取り組もうと比和支所が企画。地域住民や中学生、市職員など約50人が参加しました。県立広島大学の野原建一教授と広島県観光アドバイザーの有田隆司氏が基調講演。その後、比和中学校1年生が地域資源に関する学習発表を行いました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、「地域資源を利用した地域の活性化」をテーマに、パネリストの比和自治振興区長で農業集団連絡協議会長の岸田訓さん、Uターン者の滝川聖治さん、比和公民館長の森長貴美恵さんが意見交換しました。コーディネーターの野原教授は「比和発祥の地域資源は多く、口和や高野、庄原と連携してその活用策を探ろう」とまとめました。



5人によるパネルディスカッション

REPORT ①

高野山分校57年の歴史に幕
最後の卒業式・閉校式

庄原格致高校高野山分校で3月7日、最後の卒業式・閉校式が行われました。

卒業式では、福山友善校長が3年生4人に一人ずつ卒業証書を手渡し、分校OBで漫画家の瀬尾公治さんの言葉を紹介しながら「夢を持って努力すること、悩む力をつけることを大切に、誇りの持てる人生にしてほしい」と、はなむけの言葉を贈りました。

4人は、陸上部で全員が県大会へ出場したことなど、3年間の思い出を振り返り、「募集停止が決まったときは寂しかったけど、分校に通ったことに悔いはない。分校で培った力をそれぞれの道で活かします」と決意を述べました。

続いて行われた閉校式には、同窓生や元教職員たち約140人が出席。分校一期生の渡部保さんが「交通や経済的な問題で、進学をあきらめていた人も、分校のおかげで高校に行けた。卒業生1,746人は「労働を尊び、物事を最後までやり抜き、郷土をこよなく愛する」という分校創立時の精神を胸に刻み、これからの人生を歩んでいく。分校57年間ありがとう」と閉校を惜しみました。同窓生たちは、分校の足跡を残そうと、記念碑の除幕式を行いました。

分校は昭和27年に県立比婆西高校の高野山分校定時制課程として開校し、昭和37年に全日制に移行しました。



3年間の思い出語る卒業生



創立当時の学校の振り返る渡部さん



瀬尾公治さんから贈られた色紙を手渡す



節分草祭で里山にぎわう
自生地巡りやトークショー

REPORT ②

3月8日、総領町の道の駅リストア・ステーションで、節分草祭が開催されました。今年、暖冬により節分草の開花が全体的に早く、見ごろを迎えた自生地に、市内外から多くの観光客が訪れました。

会場には、野菜市や地域の特産品の出店が並び、リストア・ステーションの光のドームでは、RCCラジオでおなじみの世良洋子さんのトークショーが行われ、楽しいおしゃべりに笑顔が広がりました。午後からは世良さんと節分草自生地を巡る催しが行われ、観光客はボランティアガイドの伊藤之敏さんから節分草などの説明を受けながら2カ所の自生地を散策。例年にない規模で咲いた節分草に感動していました。



世良さん(前列左から3人目)と自生地を巡る



REPORT ⑨

防災に向け士気を高める 庄原市消防出初式

平成21年庄原市消防出初式が3月1日、市総合体育館で行われ、消防団員760人と備北地区消防広域行政組合の消防署員58人が参加しました。

この出初式は、1月11日に予定されていましたが、大雪により延期したもの。式では、団員への辞令交付や永年勤続者への表彰状の贈呈、滝口季彦市長による観閲などが行われ、防災に向け気持ちを新たにしました。また長年、消防後援会長を務めた故・藤原利明さん(本村町)へ山口忠男消防団長から感謝状が贈られました。

山口団長は「昨年、一昨年と大きな自然災害はなかったが、災害はいつ起こるか分からない。日ごろから地域住民と情報を共有しながら、消防団の組織力を発揮し、防火・防災・防犯に取り組もう」と訓示しました。

昨年、庄原市では40件の火災が発生し、一昨年より1件減っています。この日は、春の全国火災予防運動の初日でもあり、団員は「火災に気をつけよう」と気を引き締めていました。



厳粛な雰囲気の中、防災への意識を高める参加者

15周年の節目を観客と祝う 西城川太鼓記念演奏会

REPORT ⑩



会場に響く西城川太鼓の演奏

発足15周年を迎えた西城町の和太鼓グループ「西城川太鼓」が2月28日、ウイル西城で記念演奏会を開催しました。

西城川太鼓は、まちおこしの一環として西城町観光協会がメンバーを募って平成5年3月に結成。北広島町の観山流太鼓創始者、栗田祐輔先生の指導を受けて毎週火曜日に練習を重ねてきました。平成19年には県民文化祭で優秀賞を受賞したほか、さまざまな地域のイベントなどで活躍してきました。

記念演奏会には、県内の観山流の和太鼓グループ3団体も友情出演。西城川太鼓は比婆山をイメージした曲など5曲を披露しました。最後は、出演者全員による演奏で締めくくり、訪れた約150人の観客は、勇壮な太鼓の響きを楽しみました。

REPORT ⑪

インターネットの楽しさを体感 ブロードバンド整備記念イベント

市が進めてきたDSL整備が2月末に完了したことを記念し、イベント「NEXT SHOBARA」(実行委員会事務局:関西ブロードバンド(株))が3月15日、市総合体育館で開かれました。

市民の皆さんにインターネットの世界を身近に感じてもらうと、情報技術の体験コーナーや高速インターネット活用の講演、ネット犯罪の予防に関するセミナーが行われ、約500人の市民が訪れました。

参加者から「衛星ブロードバンドや、IP電話のデモンストレーションを実際に体験し、便利さを実感することができた」などの感想が聞かれました。

インターネットを楽しむ家族連れ ▶



REPORT ⑥

地域資源をまとめ広く発信 東地区歴史散策マップ作製



東自治振興区が、「東地区歴史散策マップ」を作製しました。これは、明治22年の「山内東村」誕生120周年を機会に、地域住民が郷土の歴史・文化資源を見つめ直し、次世代へ継承していこうと、郷土歴史文化伝承委員会を中心に1年以上かけてまとめたものです。

マップはA1サイズ両面カラー刷りで、表面は溜池・牧場・公園など7つのテーマで地域の魅力を紹介し、裏面には東地区の文化財や施設を地区ごとに紹介するなど、市外の観光客にも分かりやすいよう工夫しています。

市の自治振興区活動促進補助金を活用し3,000部を印刷。東地区の全世帯や東小学校に配布するほか、ゆめさくらや備北丘陵公園など観光スポットで広く配布します。

編集委員長の泰山弘道さんは「地域の魅力を広く発信し、多くの方々に楽しく地域を散策してほしい。今後は地域の歩みをまとめた書籍『東地区の歴史』の編集にも取り組みたい」と話していました。

◀ マップの完成を喜ぶ原田洋三事務局長

感謝の気持ちを込めて演奏 口南小が卒業ライブ

REPORT ⑦

お世話になった地域の方へ感謝の気持ちを伝えようと、口南小学校の6年生9人が3月8日、口和郷土資料館で「卒業ライブ」を行いました。

6年生と担任の先生たちが、鍵盤ハーモニカやキーボードなどの楽器で、「コンドルは飛んでいく」など全5曲を演奏。保護者や下級生など約50人の来場者から、温かい拍手が送られました。

演奏を聴いた参加者は「地域の温かさ」と6年生の感謝の気持ちが伝わる素晴らしいライブ。中学生になっても元気に成長してほしい」と、感激で目を潤ませていました。



先生を含め11人がさまざまな楽器で演奏

REPORT ⑧

心と体のほぐし方を学ぶ 第二相扶園でボディートーク



昔懐かしい歌を気持ちよく歌って心をほぐす参加者

デイサービスセンター第二相扶園に通う高齢者約30人が2月20日、「ボディートーク」で健康づくりに取り組みました。

ボディートーク協会の深川雄一さんが「猫が怒った時、背中を大きく立ち上げるが、人間も腹が立つと背中が固くなり、胃が萎縮している。心の問題は体に正確に表れる。胃や背中をほぐすことで、自律神経が活発になり、心と体が改善される」とボディートークの効果を説明。庄原子どもミュージカルのスタッフの指導で、高齢者は声を掛け合ったり、互いに背中を揺すり合ったり、気持ち良さそうに体をほぐしました。

参加者は「初めて体験したが、無理のない動きで体が温まった。これで元気になるよ」と喜びました。